

歯科衛生士学校講話

「本校における小児の集団口腔衛生指導
実習について」

黒岩富美枝、○池末恒子、藤吉清香、
一木洋子、渡邊裕子

福岡歯科衛生専門学校

歯科衛生士法が公布されてから40余年が経過し、その間歯科医療の様相も社会環境も著しく変化しており、当初は保健所歯科活動の担手として誕生した歯科衛生士も、現在では歯科医療のめざましい発展と共に歯科医療の現場でのニーズが大きく広がり、特に小児歯科や歯科矯正等、各専門分野での活躍が求められています。

ご承知の様に歯科衛生士学校（養成所）の教育期間が2ヶ年以上に改正されたことに伴い、歯科衛生士の業務に主眼をおいた新カリキュラムによる教育が実施される様になり、歯科衛生士の主な業務である歯科予防処置、歯科診療補助及び保健指導等の教育課程が大幅に改善され、実習並びに実技の習得の指導の充実が考えられております。

本校ではこれら3つの主要科目（歯科予防処置、歯科診療補助、保健指導）の一つである保健指導の実習として、小学校、幼稚園及び保育園における集団口腔衛生指導の実習を行っています。この実習を通して小学校では学童期の歯磨きの習慣化への動機づけが、又幼稚園、保育園では園児を観察することによって幼児期の特性や幼児の扱い方について学びとることが出来ればと思ひ実習に取り組んでいます。本校で実施している小児の集団口腔衛生指導実習をご紹介します。

歯科衛生士学校講話

「おやつ役割と現状について」

○丸井泰子

田川歯科衛生士専門学校

小児の場合おやつは、食事で不足するカロリーを補うものであると思いますが、それと同時に楽しんでおいしく食べられるものが望ましいと思います。おやつで摂取する砂糖の量は20グラム以下、カロリーは総エネルギーの10～20%程度、そしてタンパク質性食品であればなお良いと云われていますが、保育者の方達に実践してもらえるような指導をしなければなりません。共働きの場合、おやつを手作りするのはむずかしいと思いますし、昼間の保育者がおばあちゃんという場合もあります。

小児のう蝕予防のためには、ブラッシングとともにシュガーコントロールが大切なことは周知の事実です。現在のようにお菓子やジュースがあふれている時代、その中から適切なものを選ぶ目をまず私達歯科衛生士が持つべきではないでしょうか。指導することは簡単ですが、対象者に理解してもらい実行してもらわないと何にもなりません。一方通行にならないよう対象者サイドで一度、考えて見るべきだと思います。